

《講演者プロフィール》

Dr. Daniel Robert Doerge (ダニエル・ロバート・ドアーヂ博士)

米国食品医薬品庁 (FDA)

国立毒性研究センター (NCTR) 生化学的毒物学部

化学研究員 (首席バイオメディカル研究員)

ドアーヂ博士は、オレゴン州立大学で理学士 (生化学) の学位を取得され、カリフォルニア大学デイヴィス校で農業・環境化学の博士号を取得された。カリフォルニア大学デイヴィス校、マイアミ大学、フロリダ大学などで助手、研究助手、ハワイ大学環境生化学部准教授を歴任され、現在アーカンソー医科大学客員准教授 (薬理学並びに境界領域毒物学) をされている。また、ドアーヂ博士は世界保健機関 (WHO) 食品安全に関する専門助言者パネルメンバーであり、欧州食品安全機関 (EFSA)、FDAなど多数の専門委員として尽力されている。

ご専門は、ビスフェノールA、アクリルアミド等の毒物学、新質量分析法による化学物質の生体内動態の解析等である。

Dr. Anna Federica Castoldi (アナ・フェデリカ・カストルディ博士)

欧州食品安全機関 (EFSA)

食品成分及び食品包装ユニット 上席技官 (毒性学担当)

カストルディ博士は、イタリア国立パヴィア大学をご卒業後、イタリア国立ミラノ大学で食品・環境毒物学の博士号を取得され、その後イタリア国立パヴィア大学で薬理学・毒物学の卒後専門課程を修了された。

財団や大学で毒性学の研究員をされた後、2008年からEFSAで毒性学の担当として、食品中の汚染物質ユニット上席技官、EFSA 食品成分及び食品包装ユニット上席技官を歴任されている。

広瀬 明彦博士 (Dr. Akihiko Hirose)

国立医薬品食品衛生研究所 安全性生物試験研究センター 総合評価研究室長
食品安全委員会器具・容器包装専門調査会 前専門委員

医学博士。産業用化学物質や飲料水/食品等の汚染化学物質の有害性及びリスク評価を専門としている。主要業務としては、化審法における化学物質審査における化学物質安全対策部会化学物質調査会の専門委員と経済協力開発機構 (OECD) 化学物質共同評価プログラムにおける化学物質共同評価会議 (CoCAM会議) の日本政府専門家として活動している。現在の主要な研究テーマは、化学物質リスク評価における構造活性相関手法の開発、リスクアセスメントにおける用量反応評価手法の開発などである。